

研究主題 よりよく生きるための基盤となる道德性を養う

団体の概要

昭和37年に発足した本会は、今年度結成60周年を迎える研究団体である。東京都の道德教育の推進並びに会員相互の研鑽を図ることを目的とし、185名の会員が力を合わせて研究に取り組んでいる。

研究のねらい

昨年度、調査部が実施した児童対象の調査では、道德の学習をしてよかったと思うことに「よりよい自分になりたいと思えたとき」と回答した児童が、前年度より7%増加していた。道德科の授業が定着し、一人一人の児童が自身を見つめ、振り返りそしてよりよい自分になろうと意識していることが分かる。

児童自身ではどうしようもない不透明な社会の中でも、全都60万人の児童に「よりよく生きること」について真っ直ぐに向き合わせたいと考え、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育と道德科との共通の目標である「よりよく生きるための基盤となる道德性を養う」をそのまま研究主題としている。

道德科の特質を踏まえたよりよい道德授業づくりを行う「深める」ということと、都内公立小学校に分かりやすく道德授業を普及啓発する「広める」という役割を自覚し、各区市町村の道德教育研究会と連携をとりながら、東京都の道德教育を推進していく。

研究の内容

研究部 研究主題や副主題について、論理的分析を図りながら授業実践を行い、研究を深めていく。

研修部 授業研究を通して、よりよい指導方法や評価の在り方について授業実践を通して広めていく。

調査部 児童の意識、指導の工夫、評価等に関する調査の結果を基に授業研究を行い、効果的な指導法を探る。

事業部 多摩地区における各市町村の道德教育研究会と連携して研究会や研修会を行い、道德教育の推進に努める。

「研究授業での検証が都小道研の生命線である」ということを合い言葉に、各部の連携を深めながら組織的な研究活動に取り組んでいく。さらに、会計部、総務部、渉外部、広報部の各部が研究活動を支えるとともに、研究内容を都内各校へと広く浸透させ、都小道研の研究活動の統一感を図っていく。

成果と課題

《成果》 各部で研究テーマに基づく研修や授業研究を実施し、道德科指導の推進に取り組むことができた。

《課題》 一人1台端末の利用など、児童の実態に応じた効果的な方法を開発し取り入れていく必要がある。

令和4年度の 都小道研の主な事業

<研究授業>

例年、研究、研修、調査、事業の各部での授業研究を行っている。今年度も7回実施した。事前の指導案検討・事後の協議はオンラインを利用するなど働き方改革の視点でも工夫を試みている。授業をもとに児童の実態を把握し、研究・検証を行うことがなにより大切であると考えている。

なかでも、今年度3回の研究授業を実施した研修部では、都小道研全体の研究主題に基づき、研究主題に迫るための手だてを考え、実践を通して理論を構築していくために、授業者が明確な指導観をもち、学習指導案作成の過程で、「なぜその手だて（指導法）を取り入れるのか。」を明記し、その手法を取り入れた意図をしっかりと、授業に臨むことができるようにした。事前検討や授業後のレポートで、その指導法が効果的であるかどうかを検討するとともに、授業者の経験年数などを考慮し、授業者の思いや願いを大切に研究授業を進めている。

今後は、実施した研究授業の結果を吟味し、指導法の有効性を帰納的にまとめ、各地域に広めていく予定である。



<60周年記念講演会・懇親会>

令和4年10月8日（土）、中野区立令和小学校において、東京都小学校道德教育研究会60周年記念講演会・懇親会が行われた。前半は、「都小道研 この10年 これからの都小道研」をテーマに元会長、現会長による座談会を行った。指導要領上ではこの10年で大きな変革があった道德教育。そのなかでの都小道研の10年間のあゆみと今後の展望について考えを深めることができた。

後半は60周年記念懇親会を行った。短い時間の中、ペットボトルを持ちながらの会だったが、懐かしい仲間と直接対面して交流することができた。座談会も懇親会もとても有意義な時間となり、都小道研のさらなる発展を期す機会になった。

<連絡先>

団体名		東京都小学校道德教育研究会
代表者	所属	中野区立令和小学校
	職 氏名	校長 松井 敏
	連絡先	03-3389-1461
事務局	所属	昭島市立田中小学校
	職 氏名	校長 星野 典靖
	連絡先	042-543-1511